

こどもが まんなか

# いわてのWAっこ



いわて幼児教育センター通信

No.7 令和7年12月8日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室

(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県HPからダウンロードできます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>

きらきら☆いわてっこ

いわて幼児教育センターの専門員が先月に訪問支援した園で見つけた、ワクワクドキドキな姿をご紹介します。

## 「遊びは学び 学びは遊び やってみたいが学びの芽」 ～地域の自然を生かした環境構成と援助を考える～

園舎の正面に大きな林(山)があるこちらの園。この園の大切な環境です。子供達は、ここに出かけるのが大好き。先生達が職員配置や時間を調整し、未満児から年長児まで、はりきって準備をして出かけます。

四季折々、葉っぱの色が変わり、山の雰囲気も変わります。秋のこの時期はたくさんの落ち葉が敷き詰められていました。早速、落ち葉の迷路ごっこが始まりました。保育者と一緒におもしろい迷路ができ、子供たちが「やってみたい」と集まってきました。そのあとは葉っぱに全身が埋まる遊びをしたり、お風呂ごっこになったりと…。わくわくが止まらない楽しい遊びの連続でした。



保育者は、林の中のたくさんの落ち葉を熊手でかき集めていました。それが子供たちの迷路ごっこにつながっていました。この時期ならではの楽しい遊びです。



山の上は災害時の避難場所になっているということでした。順路の整備は保護者や地域の方々で定期的に行っているそうです。地域にとっても大事な場所、子どもたちにとっても安心・安全な場所になっています。



ミミズ発見!!  
ひよいと持ち上げて見せてくれました。3歳女児が、「お家に帰りたいんだね!」「パパとママに会いたいんだ!」と言ひながら、最後は地面に埋めて葉っぱをのせました。

・園児は、園内外の身近な自然の美しさや不思議さに触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、関心をもつようになる。

・園児は、生活の中で心を動かす出来事に触れ、みずみずしい感性を基に、思いを巡らせ、様々な表現を楽しむようになる。園児の素朴な表現は、自分の気持ちがそのまま声や表情、身体の動きになって表れることがある。

(幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P61, 66)

(観察者の目)

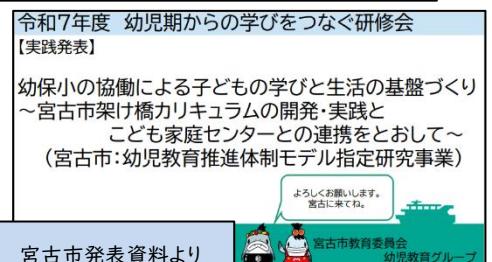
領域「環境」の自然に触れる遊びや生活は、保育者にとって工夫が求められることです。 “あるからいい、ないからできない”ではなく、子供の遊びに、どう生かしてどうつなげるのか、考えていくことが大事です。

## 研修の報告 ~R7.11.13 幼児期からの学びをつなぐ研修会~

生涯学習推進センターにおいて、県内の幼児教育施設、小学校、行政担当者ら 103 名が集まり、標記の研修を行いました。午前中は「架け橋プログラム」についての理解を深める講義及び演習、午後は宮古市の実践発表や県教育委員会の各担当課指導主事によるパネルディスカッション等を行いました。研修者の皆さんには、申込みの際に自分の参加したい時間帯を選択していただき、自分にとって必要な学びを選んで来ていただきました。

宮古市の発表では、昨年度から県のモデル指定研究事業に取り組んできた成果を詳しく伝えていただきました。開発会議のメンバーである教育委員会、保健福祉部、幼稚園、保育所、小学校の各担当者が、実践の際の子供達の様子を動画を交えて詳しく説明したので、取組によって子供達の学びがつながっていく様子がよく伝わってきました。また、実践を通してそれが学んだことや、どのように関係機関が連携してきたのかについてもお話しいただきました。各地域にも広げていきたい発表内容でした。

パネルディスカッションでは、義務教育担当、保健体育課、特別支援教育担当、生徒指導担当、幼児教育担当の指導主事が、それぞれの立場から「育ちや学びをどのようにつないでいくか」を交流しました。様々な視点からの話を聞くことで、研修者一人一人の視野が広がり、最後の演習では、パネリストに熱心に質問する姿があちこちで見られました。



小学校と幼児教育双方から働きかけることが大切だと感じました。私の園では年1回の交流と引継ぎがメインになっています。最後のパネルディスカッションの話を聞いて「学びの場も引き継ぐ」という言葉がとても印象的でした。引継ぎというと、子供の情報を引き継ぐ、その子の特性を伝えることだと思っていました。しかし、学びの場も引き継ぐことで、子供の不安を取り除くことができるのではないかと感じました。(保育教諭)

幼児教育で行われている学びや園の環境をもっと知る必要があることを感じました。そのため、研修に参加したり本などで学んだりすることはもちろん、自分の地域の園を参観して園の環境や実際の子供達の姿について理解を深めたいと思いました。また、低学年担当の教員だけでなく、どの学年の教員も園の子供達の育ちや学びを理解できていると、学校全体で架け橋プログラムを進められるのではないかと感じました。

(小学校教諭)

1月に本自治体で行う研修では「遊びを通して学ぶ」ことに焦点を絞って伝えていきたいと思った。また、宮古市の現段階のカリキュラムを見て、本自治体のカリキュラムの改善の必要性を感じた。誰が見ても分かりやすい、使いやすいものでないと定着は図れず、活用されないと気付かされた。

各シンポジストの話に担当ならではの重みがあり、多くのことに気付きました。(行政職員)

よしければ、各市町村・園の取組の様子をお寄せください。「いわての WAっこ」等を通して、すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現のために、県内の皆さんの共有財産にしていきましょう。

【担当】 いわて幼児教育センター Tel:019-629-6149 Email:DB0003@pref.iwate.jp